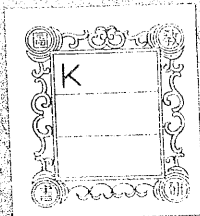


初等  
小學修身書

吉田利行編輯

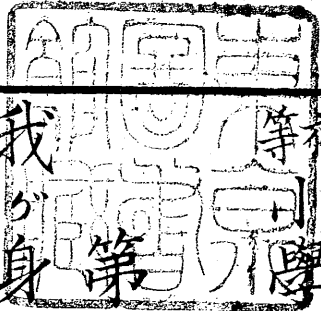
二



明治十八年六月印行

# 初等小學修身書

星文館藏版



初等小學修身書卷之二  
第一章

吉田利行編

我が身は父母よりうけたれば。父母を  
己の身の本あり。其うへ。我が生まるる  
初めより。父母の養育よりて。人とあ  
れり。生まるると。育ハあるを。二つの恩  
あり。故る人の子たるをのハ。先づ父母

初等小學修身書

子事ふる道を早く學びて知る處。孝の道よろや記はおろゝあるとれ至り  
れり。初學訓

朝ハ早くおれて。父母の安否をうかひ。ゆふべハ父母の寢所を安く。朝夕と晝とをりく。父母よまよえて。うとくおろそのおとび。むつまどく志て。又敬ふ處。同上

父母よまよゆるハ。先づ我が顔の色をやもげ。聲をよる志を志く。其時日の要用次尋ね問ひ。世の中のあり事ども。物がたりて。父母乃心を慰め。父母の教へ何らば。たしくしんで聞く處  
し同上

親のめし給ふ時ハ。早く返事して。手にある物もおげきて。口よあるものも吐

ま出だして。そりゆく大和  
小學。

父母の聲を聞く。父母の形を見ずと  
以へども。父母常は教へ戒しめ給ふと  
を。須臾も忘る大和  
小學。其事大和  
小學念らば  
勤め。まべて父母れ意は先だち。其志  
を承け。其事大和  
小學念らば。日新館  
童子訓  
何方へも。出で行く事あらば。先を申し  
あげて。おとうへ行く大和  
小學。何時歸らん

と申しあげて。その時大和  
小學念らば。日新館  
童子訓  
歸りてハ。先づ父母前へ出で。先  
て見し聞きしとおど語りて。父母の心  
を慰む大和  
小學。日新館 童子訓

父母年老いて後。大う側を離れ。出  
入り。手をひき。後を抱へ。父母若  
し病ひあらば。晝夜帯大和  
小學解く。他事を

捨て。看病醫藥の事よのみ。心は法くを  
燈。六論行義大意

女子ハ成長して他人の家へ行き。志う  
と志う望め。つうふるをのふれば。男  
子よりも。親の教へ。ゆるかせよを燈の  
らび。女大學

既よめ入りし後を。志うと志う望  
めを。我がまふと能親と思ひて。孝行を

ふま燈。敬ひ以法を。み奉りて。心を  
専ら。誠をほく。少しも情を燈  
う。内訓

### 第二章

兄ハ子のりみまて。親子近ければ。うや  
まひ従ふ燈。若し兄より。弟を愛せむ  
とも。弟ハ弟に道を失ふ燈。その  
外。親戚傍輩のうちまても。年老いたる

長者をバ。うやまひて。あふどるとある  
礼。是弟に道あり。童子訓

能く兄に事へて。悖らざるは悌といひ。

弟を愛し。むつまじく礼を友といふ。日新

館童子訓

兄ハ弟を愛し。言ふ所行ふ所。弟に手本  
とあるやう。むつまじく教ふ也。弟年  
おろしもおくば。身の立川やうにまべ

一。同上

こ志うとお志うとめら。夫の兄弟おれ  
バ。敬ふ也。又おひよれを志し。睦  
まじくまべ。おとさら夫の兄あまよ  
沈ハ。厚く敬ふ也。我が兄姉とおお  
とまべ。女大學

志うと志うとめら。我を愛し給ふハ。あ  
ひよめこ志うとめら。我が事を不

於てよく以ひ給ふ故あり。志のら  
バ。志は心以よくかんがへて。おひよ然  
こおうとのと。志のら。志を。其心よか  
おひ侍るやうをまべ。女誠

第三章

むろー皇祖天照大神。天孫尊子詔りー  
て。寶祚のさのへ。まきは天壤と。まはま  
りかふる。とあり。天地もむろー

かたらび。日月も光り改めび。況や三  
種の神器。世に現在にたまはる。まはま  
りある。我の國に傳ふる。  
寶祚あり。仰き尊み奉る。日嗣を  
うり給ふ。皇よあんおま。天皇正  
統記  
あはつちれ。ひくけを。神代より。  
たえぬ日嗣の。未だ久し。續千載集  
神代より。こはの寶。をたもりて。豊あ

一原也。志ありとぞある。夫木集

王者を天子と申し奉る。王者天道を奉  
ト。萬民を撫育し給ふと。多とへば人の  
子の父乃家督以繼ぎ。家法を守り。家族  
を撫育するが如くある故の御名あり。  
されば王者は御職を天職と申す。天子  
代をりて。萬民以撫育し給ふ御職かれ  
バあり。為學初問

君は仕ふる人ハ。ひとへし君はためし。  
忠をのこ志して。私欲忘れ。我が身をか  
へりこるとあるれ。初學訓  
よろづの事ハ。勤むるより成り。怠  
るよりすりてすたる。各其位ありて是。  
其職分を慎むべし。一念を志まざら  
ば。衆人の患ひとあり。一日を志まざ  
れば。おがき患ひとあるとあり。君子訓



農工商を。君は仕へむと以へども。又其國郡を治め給ふ。君恩を忘る處うらむ。大君の御めぐみりすりて。うらむ。太平の樂しみを。うらむと改まるるあぶべし。  
初學訓

以よしへより。下として上改誹るハ。忠敬の道よそむけば。是を以まし然たり。かるぶゆきり。未の國よ居てハ。其大夫

を命よそしらぬをのといへり。況や君よおぬそをや。大和小學

當路の人能非をあげ。政道をそしるハ。大なるむらとかる處し。一人あををせかへ。萬人あれを和まる時ハ。亂の本かり。為學初問

第四章

師よあひて物改習ふ。朝ハ師よ學び。

夕ハ以よくかき祢習ひ。夜卧して。一日の中。口に言ひ。身は行ひたるを。うへりて。あやまちあらバ。悔以て後。子以まゝ。終とまべし。童子訓

す。急て學び習ふと。先づ容を正しく。已を。急り之。さ。終。一。みて其業を受くべし。或ハ尊者に對し。先の言以まゝ。終ハらざる。我が意を以ひ。或ハ我が言の。之。或專らと。先の言をよせ。聞きあがし。或ハ雷同して。一座。終者と同時にかまびき。く。應答し。或は先の言。或は。或ハ餘人と高談。及。終の類。皆不遜不敬の事あり。以まゝ。むべし。日新館 童子訓

親と師と。敬ふ道理同。れば。以。終。も。呼び給ふ時ハ。返事をゆるく。せ。早

く答へてまゐる。大和小學

師匠の前は居る時ハ。何よても。物を問ひかけ給ふ。其辭の終ハるまで待ち。返答申し上ぐ。物を習ふとき也。二たび不審を問ひ返るときは。行儀を改めて。うけたまはる。同上。

### 第五章

先生又ハ父兄と。位を同トふまゐる不ど

乃尊者へ。道り遇ふ時ハ。已道わき小びりへて。禮成かま。あせと座をる時ハ。手をもてあそを。熱ハれども。扇を取らぬ。寒けども。手をおとあ。少者。長者は従ひ行く時ハ。何よても。長者は持ちたる品を。少者受け取りて。其勞り代を。日新館童子訓

尊者は従ひ行く時。懇意の人。途中

逢ふと以へども其人は近づきよめて。物語りを起しらば。同上

尊者は前より侍る時。又も他へ行き。我が上より立つ人來たらば。其座を起ちて迎へ。歸りしも又送る座。同上

尊者は前より居る時。他人來たりて。用事何らんとおもふ。其座を退くべし。同上長者何事よても。問ふとあはる。先づ一

座の人を顧望し。たのき人は先だちて。率爾に答ふべし。同上

若し長者。少者を近づくて。物語りせば。己が息を長者にふれざるやうに。手を以て口を掩ふて。答ふ座。同上

長者は對し。專らに應答せざると以へども。言ふ時ハ。誰れ斯く言ひ。誰れを聞きしと。其事のまじりたるを。物語りを起

一。假初も。人の説を取りて。己が思慮  
より出づる如く。言ふ處のうら。同上  
荀子に説けるは。人三つにあり。一。事あり。二つは。若くして。年たけよる人を  
うやまをざる。二つは。以や。き身を  
貴き人。三つは。へざる。三つは。無智  
して。賢くせし。人。故志し。ざる。是三つ  
の不祥ありと。大和小學

長上の中にて。其行ひ正しく。人のか  
みともある人。三つは。及を。其外藝  
能ありて。人の師匠もある人。別  
て。敬ふ。六論衍義大意  
又我より位高き人。老と。年弱と  
て。杖徳なくとも。既し我が上り立つ人  
あれば。是亦長上あり。常し禮義を存  
て。侮る心。何ら。同上

第六章

孔子のたまひ。人と交をるは益ある友と損あると。以て其も三つの志あり。まぐある人。まふある人物志あり。益友あり。ゆびみる人。まびつらふ人。口利根ある人。損友ありと。大和小學

人は善惡ハ。多くは習ひあるによれ

り。善は習ひあるを。善人とあり。惡にあはひあるれば。惡人とある。然れば。以とけふま時より。習ひあると。改慎む。かまよ。何しき友と交をま。習ひて。あし紀方に。早くうほりやま。おそる。童子訓

古語は曰く。麻の中あるよも。紀をたを。けざれども。おのほのら直し。又朱は交

をせば赤し。墨はあつげ赤は黒しと以ふ。よまふとは志の望。若き時血氣以まだ定まらば見ると聞くとは。うつりやを愛ゆゑ友ありおれを惡し移るふともや。同上

外は出でず。遊び居るよを。必だつね能あるを定めて。みぢりよあはれことあふ。用ふき所よ

行つげ。其友として交する所の人を思はびて。善人は清純り近づき。良友は交するを。同上

心友を友と以ひ。面友を朋と以ふ。人を擇びを清るよあはげ。己よ志らざる者を。面友として。禮を以て交をりをあま。小人を親しむ。心友として。徳をそこかふ。盈らざるのこ。集義和書

人此隱き事を聞き出だし。或ハ窺ひ見  
る處あらび。ちして懇意よもあまをの  
と。廣く押寄せ近づく處うら。何不ど懇  
意のそのととも。辭を崩し交わる處ら  
らび。さハ奴僕に交もりに等しきとに  
て。恥づべきとあり。日新館童子訓

### 第七章

父母の方へ客あらば。設け置きたる茶

煙草。そきくし出ださし。然。父母此言  
ひ付けし志しが。事次とのへ。早く  
辨むるやうまをべし。同上

客を得てハ。奴僕を勿論。犬猫の類に至  
るまで。叱ると何ら處らる。同上

食を進むる節。唾をきせび。飲食を取る  
そのは。口氣の其品。及ばざるやうよ  
まを。尤も氣を嗅ぐ處らら。飲食次



執りて進むる間。人問ふとあはば。片向  
きて答ふ。魚。唾をき。能穢きあらんと  
を。きらひて。なり。同上

本又ハ琴琵琶など。能類ある上を。亦え  
て通るべららず。やうの器も。能あら  
バ。修。一。みて。跪き。已きへ移して通る  
魚。大和小學

物を人。渡した時。先の人立ちて居る。

ハ我も立ちて渡し。先の人座して居る  
ハ。我も跪きて渡すものなり。是ハ受  
取る人。能自由よきためあり。同上

内。物。能。満ちたる器をのを持つ。如く。内  
に。人。能。き。む。亦。一。能。家へ。も。ひる。亦。人  
住む所へ。も。ひる。如く。心得。能。亦。亦。一  
ま。亦。能。斯くの如く。修。志。む。と。亦。ハ。以

もんや満ちたる器もの。人ある家をや。同上

人の履を扱む。飽く。人。能。席。伏。ふ。む。べ。ら。ら。ず。座。子。を。ま。て。は。答。へ。返。事。能。辭。を。作。く。志。む。べ。し。同上

第八章

人の器物を借るとを好むべららば。人。或。ま。た。ぐ。る。と。速。慮。す。べ。し。入。用。あ。り

とも。あ。ら。な。き。不。ど。ハ。不。自。由。を。こ。ら。へ。て。人。の。器。を。借。る。飽。ら。ら。ば。若。し。已。む。と。を。得。む。し。て。器。を。か。ら。ば。そ。あ。あ。ふ。飽。ら。ら。び。用。ひ。終。ハ。ら。ば。も。や。く。返。を。な。し。

家道訓

若し借まる物損せば。よく補ひて。其過。ち。を。謝。し。返。を。べ。し。お。よ。そ。我。が。家。に。人。の。財。寶。器。物。書。籍。等。を。か。り。て。か。へ。さ。ば。

るをの何りやと。時々さげらるかへり  
とる也。若し借するをの何らばをみ  
おろり返さべし。同上

人の書を借らば。我が書はさしおきて。  
先づ人々書致專一は見て。早く返をせ  
し。人の書をかりて見せし。久しくと  
どめおくハ。おこたまりあり。同上  
人々書籍をからば。大事よるけ取り何

はかひて。若し前より。損トたる所  
おど何らば。はくろひ補ふやうよ。心が  
く。心がかけおま人々。はくろひのものと  
に。取りちらしおきて。女已らん。おど  
よ。けがしよぶされ。又ハ雨風蟲鼠等に。  
そよおひやぶられんハ。かひおまよに  
あらむや。大和小學

初小學校修身書卷之二終

K110,1

明治十八年四月十七日 版權免許  
同 年六月 出版

編輯人

福岡縣士族

吉田利行

福岡縣福岡區福岡西職人町六十四番地

出版人

同

林 斧介

同縣同區箕子町百廿番地

同

同

山崎 登

同縣同區橋口町四十番地

初等小學修身書

吉田利行編輯

三

